









































## 日本語訳の掲載開始にあたって (中川 徹、2019年 2月 20日)

この「子どものための CID コース」を英語版から翻訳して日本語版を作成することは、当初からの夢でした。ただ、その分量の多さのために、この 20 年近く取り掛かることができませんでした。このたび、ともかく第 1 分冊の日本語版を作成し、公開できることは、うれしいことです。

実は、2013 年 2 月に、高原利生さんがこの第 1 分冊の指導の手引きとワークブックの一式を和訳して、中川に提出下さいました。当時私は多忙にしており、それを推敲して仕上げることができませんでした。そのため、そのまま立ち消えになり、本当に申し訳ないことをしました。

2018 年 10 月になって、福田ちはるさんが英語版に感激され、新たに第 1 分冊の日本語版の原稿を作成くださいました。福田さんは、弁理士資格を持ち、二女一男の子育て中の若いお母さんです。私は、高原さん・福田さんのご努力を今度は無駄にするまいと思い、第 1 分冊の全章を推敲しました。全 6 分冊のうちの第 1 分冊をここに公開して、多くの方に読んでいただき、使ってみていただいて、今後、全編の日本語版公開に取り掛かります。

日本語版の作成の基本方針と注意点は以下のようです。

- ・ 全体構成や各章の記述内容は、原著・英語版に沿って忠実に訳しています。
- ・ 先生用の「指導の手引き」では、「基になっている TRIZ や CID の考え方をできるだけきちんと伝えるように」、忠実に訳すと同時に、必要な訳注をつけています。
- ・ 生徒用の「ワークブック」では、「子どもたちに分かるように」を最大の方針として、言葉遣いに注意し、やさしい漢字だけを使い、魅力があり、興味を引くように配慮しています。例えば、コースの名前も、子どもたち向けには『子どものための CID コース： あたらしいことを思いえがく力をつける』としました。

- ・ 原著には、ロシアの児童文学・詩・諺などが多く引用されており、英訳注を頼りにその雰囲気を残すようにしています。一方、なぞなぞや言葉遊びなど、言語に依存する部分は、英訳注・訳注を残したうえで、趣旨を踏まえて日本語での例に作り変えました。福田さんのセンスが生きています。
- ・ 「指導の手引き」では、教室で子どもたちに話し行うことの記述(黒字)、先生のための説明の記述(青字)、英訳者の注と和訳者の注(緑字)などを、フォントの色と字下げで区別して示しました。(原著でこれらの区別が混乱していると思われる所があり、修正しています。)
- ・ **TRIZ** の概念・用語の、子どもへの説明に苦労する点が多くあります。特に原著で枠線で囲んでいる重要概念の記述が、原著・英訳版で子ども向けにこなれていません。そこで、趣旨を維持したうえで、子どもに分かるように、言葉を選び、説明を言い換えています。
- ・ 英語版は、**Web** 上に掲載し、ハイパーリンクを活用して、相互参照の便を重視しました。しかし、日本語版では、学校やサークルで子どもの教育に実際に使うときの便利さを重視しました。プリントアウトすれば、すぐ小冊子になるように、**PDF** での掲載を主体にしました。製本版も後日作成し、出版する予定です。
- ・ 本書を使って、実際に子どもたちに教えてみる経験をもつことが、非常に大事でしょう。その際、原著者自身が繰り返し書いていますように、教材ができていればうまく行くのではなく、先生と子どもたちとのその場その場での交流が大事で、臨機応変さが求められます。いろいろと工夫しながら、教材も内容も改良していくことが大事なことでしょう。
- ・ 実際に、福田ちはるさんが、小学校 2 年生のお嬢さんにとりどころ教えてみて、なかなか難しかったとの感想でした。数人のグループ、あるいは十数人のクラスだと、かえって楽しく教えられるのかもしれませんが。
- ・ 「創造的想像力の開発(CID)」というテーマで教えるには、**TRIZ** のような考え方を学んでいるだけでなく、先生自身が豊かな想像力(空想力)、とらわれない楽しいところ、子どもに帰った心(童心)が大事なのでしょう。

- ・ いろいろな方が、いろいろな場で、この CID コース、「新しいことを思い描く力をつける」ための教育を試みてくださることを、願っています。
- ・ 日本語版を作ってみて、原著者ナターリア・ルービナさんと、英訳者イリーナ・ドーリナさんの貴重な労作に、改めて感謝いたします。
- ・ さらに、第 2 分冊以降の日本語版の作成(英語版からの翻訳作業と日本語の教材としてのブラッシュアップ)に、ご協力いただける方を募っています。編集者までご連絡ください。

中川 徹 nakagawa@ogu.ac.jp

## 参考文献

1. Altov G.: "And Suddenly the Inventor Appeared", Detskaya Literatura, Moscow, 1989.  
和訳: 超発明術 TRIZ シリーズ 2 導入編「やさしい事例に見る活用  
法」、G・アルトシューラー著、三菱総研 IM プロジェクト推進室訳、日経  
BP 社 (1997).
2. Bashaeva T.V.: "Children's Developing of Perception", Akademia nauk, Yaroslavl, 1997.
3. Belobrykina V.G.: "How to Become a Magician", Moscow, 1994.
4. Granovskaya R.M.: "Elements of Practical Psychology", Publishing House Svet, Sankt-Petersburg, 1997.
5. Grinder and Bendler: "From the Frog to the Princes (neiroinguistic programming)".
6. "Children's Encyclopedia", Rosmen, 1994.
7. "Games: Educating, Training, Recreation", edited by V.V. Petrusinsky, Novaya shkola, Moscow, 1994.
8. Kryazheva N.L.: "Developing of Emotional World of the Children", Akademia razvitiya, Yaroslav, 1997
9. Kuryachaya M.: "Chemistry in Pictures", Detskaya literatura, Moscow, 1992
10. Seminar materials of Murashkowska I.N. and Nesterenko A.A., 1994-1995
11. Murashkowska I.N.: "When I Become a Magician", Theory of Knowledge, issue 5, Riga, 1993.
12. Murashkowska I.N. and Valums N.P.: "The Non-stop Pictures", Publishing TOO "TRIZ-Shans", Sankt-Petersburg, 1995.
13. Nesterenko AA.: "The Land of riddles. The Method of Using Riddles", TRIZ Magazine 3.4.92
14. Rodari, J.: "Fantasy Grammar", Progress, Moscow, 1990.

15. Rubina N.V.: "Creative Imagination Developing course for the elementary school", Petrozavodsk, 1996.
16. Rubina N.V.: " Workbook on CID (Creative Imagination Development) for a first grade (first semester)", Petrozavodsk, 1998
17. Magazine "Tram". 1.1.90
18. Uralskaya V.L. and Litvin S.S.: "Conjuring Trick as a Subject of Education and a Method", Magazine TRIZ. 3.4.92.





子どものための  
創造的想像力の開発(CID)コース  
新しいことを思い描く力をつける  
小学校 1年生 ~ 3年生  
指導の手引き 導入編

原著： Natalia Rubina

日本語版： 福田ちはる・高原利生・中川徹 他 訳

発行者： クレプス研究所 中川 徹

発行日： 2019年2月20日